

 **（東証スタンダード市場：6848）**

**2022年度上期
（2023年3月期 第2四半期）
決算補足説明資料**

東亜ディーケーケー株式会社

2022年10月

- 売上高：部材調達の長納期化の影響を強く受け減収
 （国内）官公需は例年並み、民需は堅調な設備投資により受注好調、
 売上高は横ばい
 （海外）主に中国・上海市ロックダウンによる現地生産一時停止で減収
- 利 益：減収・原価率上昇・販管費増加により減益

（単位：百万円）

	2021年度 上期実績	2022年度 上期実績	前年同期比増減	
			金額	率
売上高	7,434	7,154	△280	△3.8%
営業利益 売上高比	640 8.6%	360 5.0%	△280	△43.8%
経常利益 売上高比	673 9.1%	372 5.2%	△300	△44.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益 売上高比	465 6.3%	311 4.4%	△154	△33.2%

計測機器事業（減収減益）

売上高7,032百万円（3.7%減）、セグメント利益746百万円（20.3%減）

■ 国内売上高：受注好調も、部材調達の長納期化の影響により売上高は横ばい

- ①環境・プロセス分析機器：官公庁向けは例年並み。民間企業向けは半導体設備関連の大型案件を獲得するなど受注好調も足元は減収。
- ②科学分析機器（ラボ用分析機器・ポータブル分析計）：受注堅調も足元は減収
- ③医療関連機器（主に粉末型透析用剤溶解装置）：受注好調も微増収
- ④電極・標準液、保守・修理及び部品・その他：保守点検が計画通り行われ増収

■ 海外売上高：主に中国・上海市ロックダウンによる現地生産一時停止の影響で減収

■ 利益：部材価格高騰や円安による原価率の上昇、販売促進費・研究開発費の増加で減益

不動産賃貸事業（減収減益）

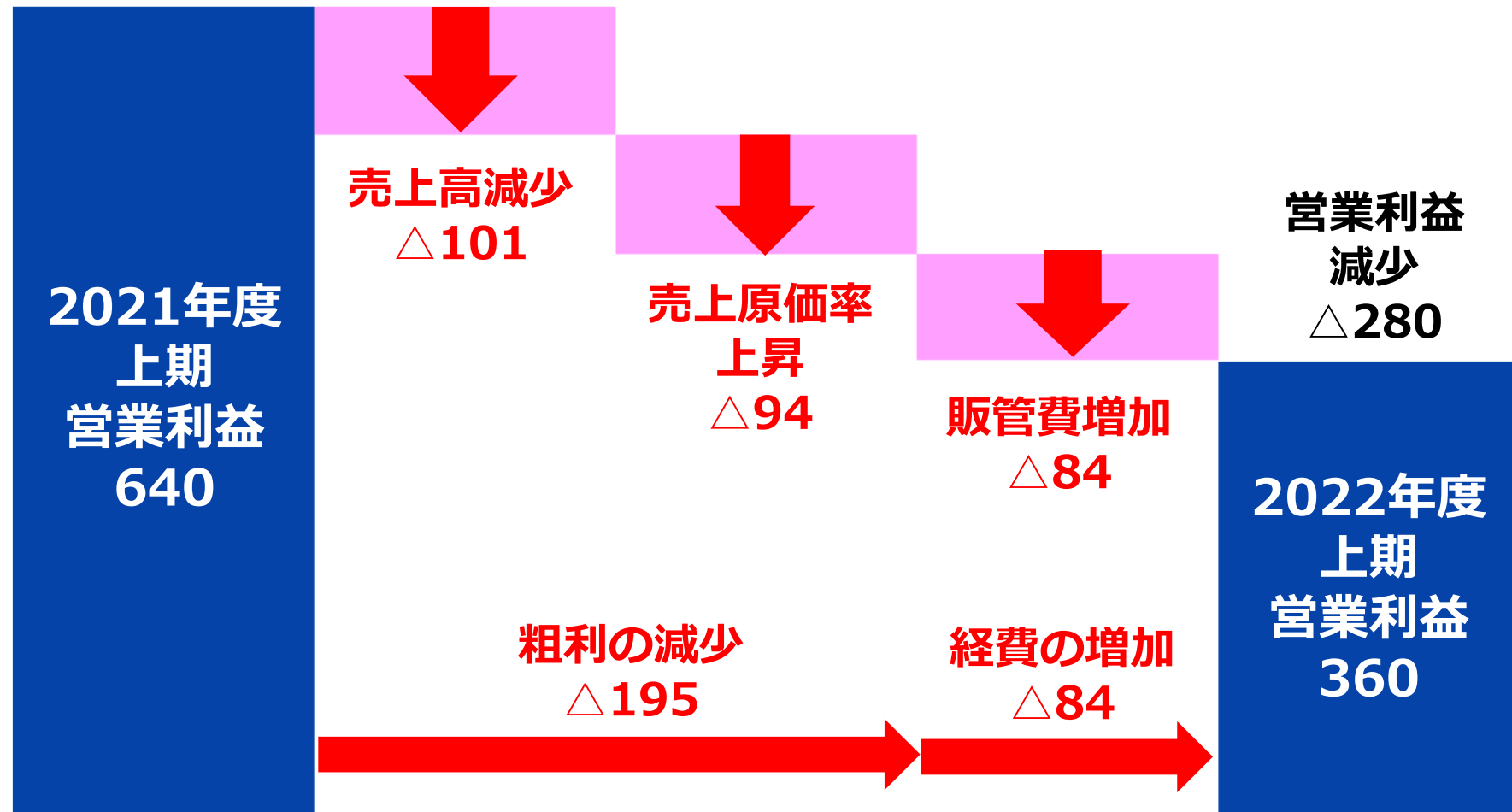
売上高121百万円（5.5%減）、セグメント利益72百万円（11.5%減）

■ 主な賃貸物件は、本社に隣接しているビル1棟と駐車場

営業利益の増減分析

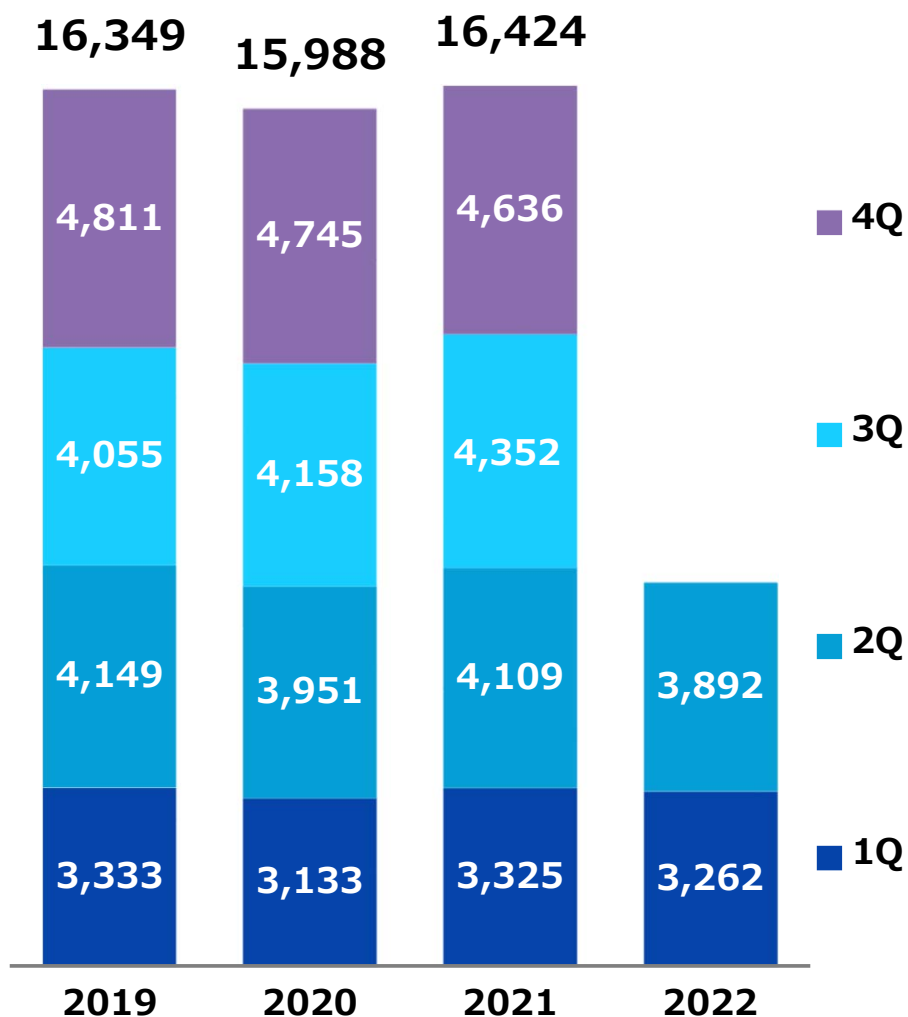


(単位:百万円)

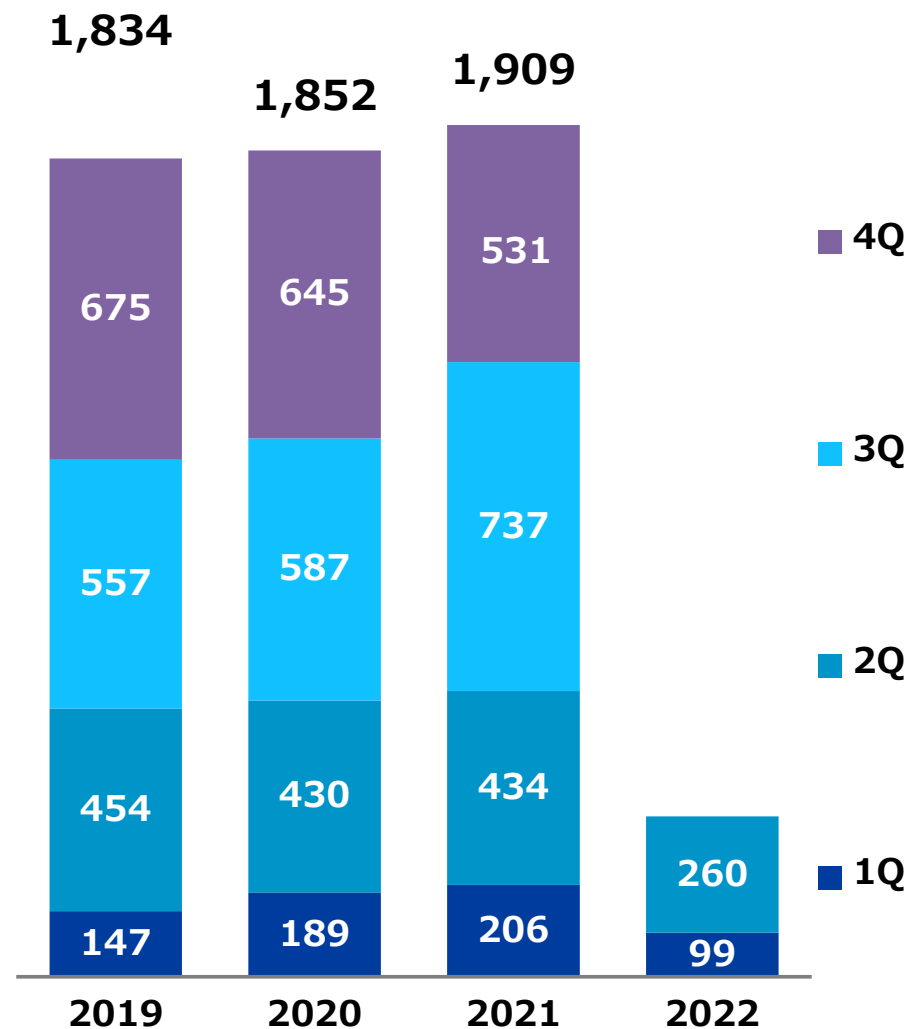


(単位:百万円)

売上高

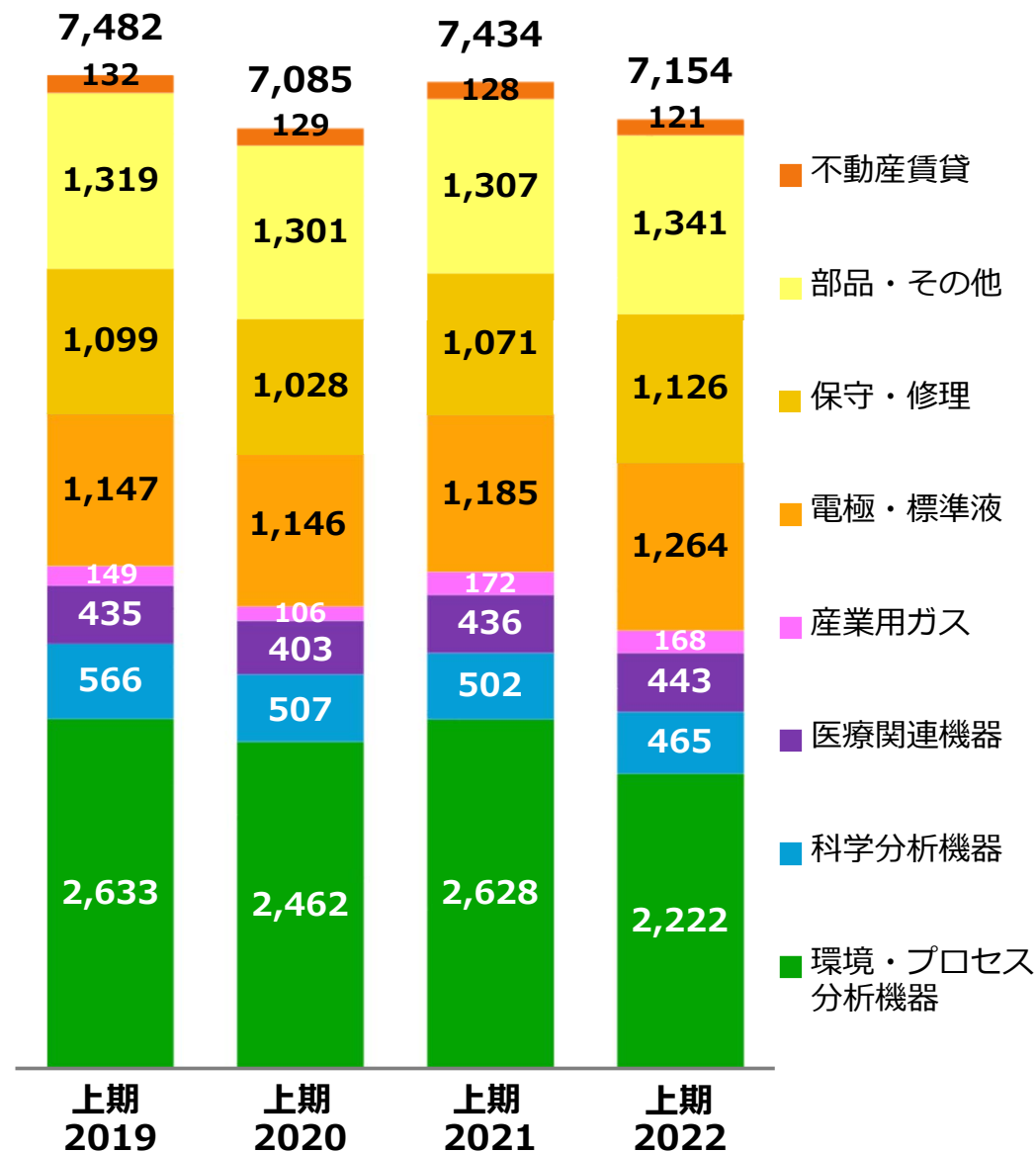
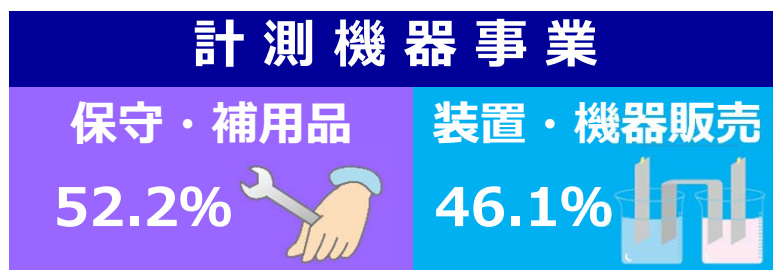
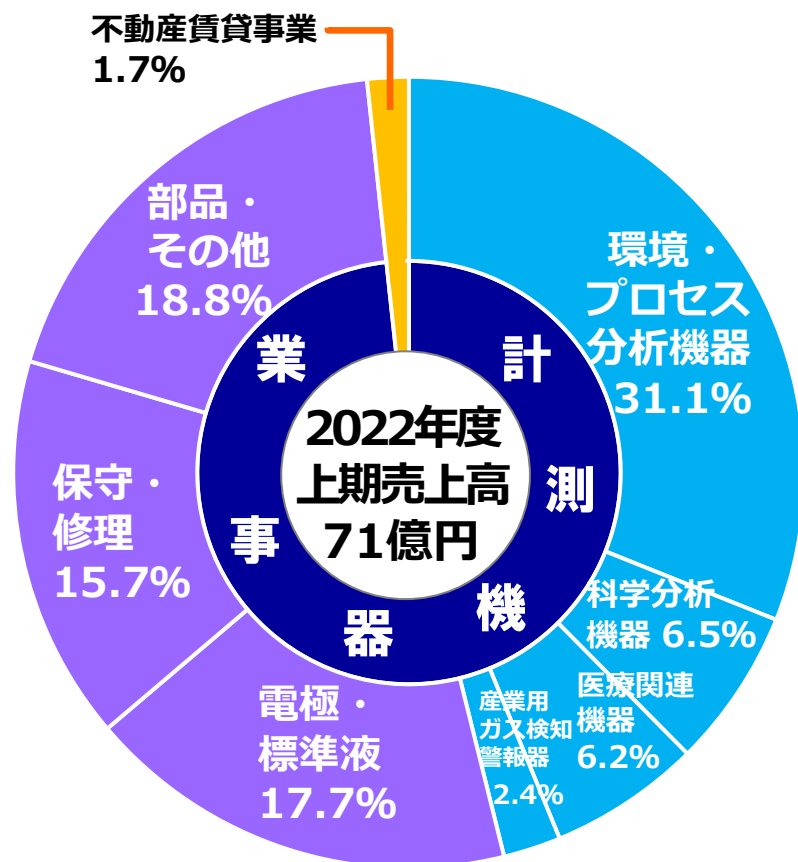


営業利益



分野別構成比と売上高推移

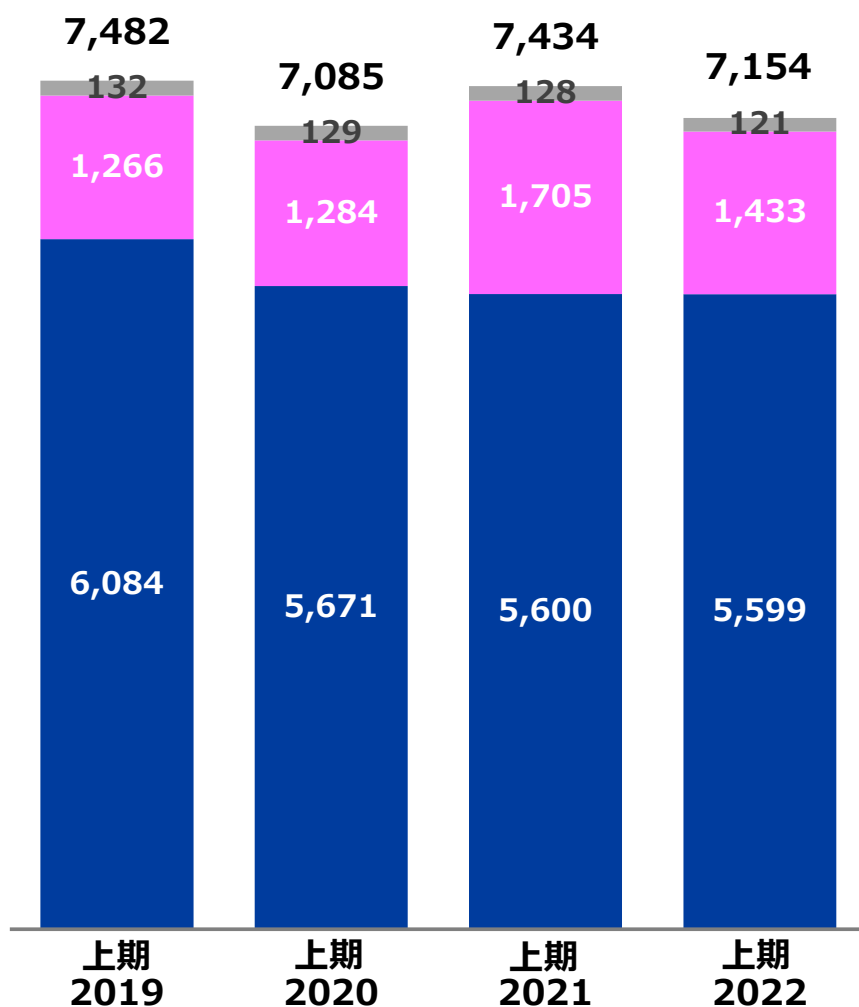
(単位:百万円)



(単位:百万円)

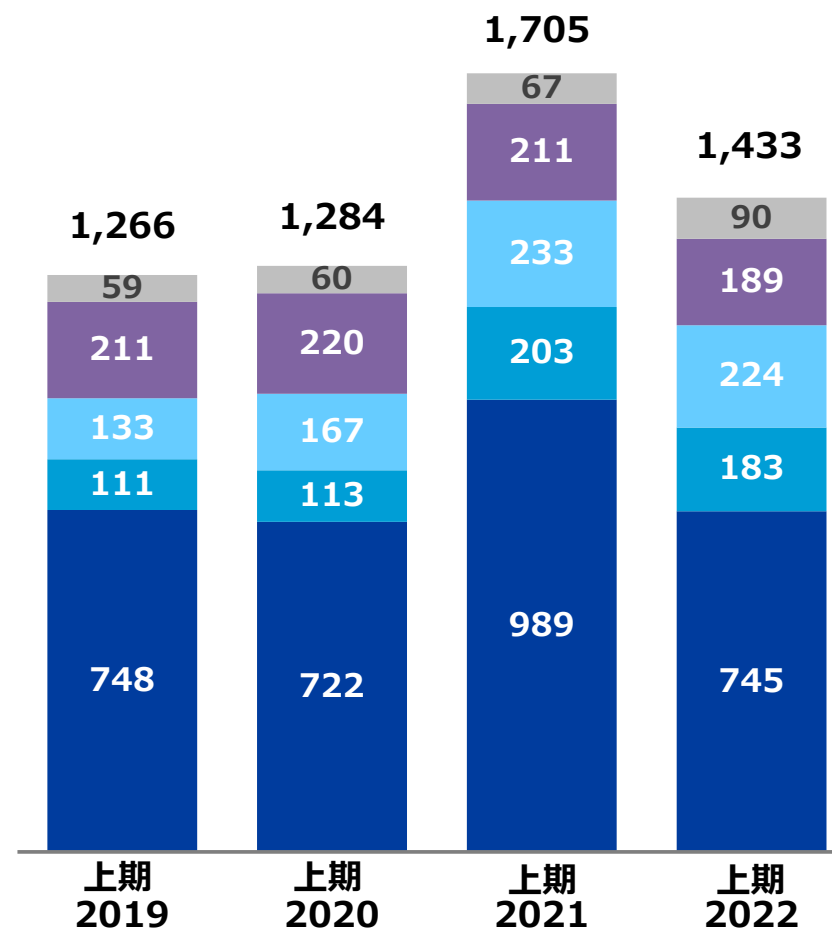
国内外の売上高

■ 計測機器：国内 ■ 計測機器：海外 ■ 不動産賃貸



海外の国別売上高

■ 中国 ■ 韓国 ■ 台湾 ■ その他アジア ■ その他



- 本資料は当社をご理解いただくために作成したものであり、当社への投資勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。
- 本説明資料中の記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しておりますので、表中の内訳と合計が一致しない場合があります。
また、諸比率は円単位で算出の上、小数点第2位を四捨五入しておりますので、合計が100.0%とならない場合があります。
- 将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上でご利用ください。
- 業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成しておりますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。
- 本資料は、投資家の皆さまがいかなる目的にご利用される場合においても、皆さまご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。

＜お問い合わせ＞

東亜ディーケーケー株式会社

経営戦略部 経営企画課

メール：ir@toadkk.co.jp

URL：https://www.toadkk.co.jp/